

令和6年度 応 神 中 学 校 総 括 評 価 表

自 己 評 価				学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指数と活動計画	評 価		
1 豊かな心の育成	①主体的に学校生活を送れる生徒の育成 ②人権教育の推進 ③特別支援教育の充実	評価指標 生徒アンケート ①「楽しい学校生活を送っている」 ②「互いの人権を大切にし、仲間を大切にして生活している。」 教職員アンケート ③教職員は特別支援教育について正しい理解と意識をもち、支援の必要な生徒に応じた手立てや支援を工夫している。 ----- 活動計画 ①生徒が積極的に取り組み、充実できるような場（委員会活動や学級活動、行事等）を設定する。 ②いじめや差別解消に向けて人権研修等を行い、意欲と実践力を全教職員で育む。 ③普段から支援の必要な生徒についての情報交換をし、指導の手立てについて共通理解を深める。	評価指数の達成度 ① A 94.3 % ② A 92.9% ③ A 100 % A85%以上 B60%以上85%未満 C60%未満 ----- 活動計画の実施状況 ①各行事、活動においてそれぞれに役割を与えるよう工夫し、生徒主導で進めるようにした。 ②地域でのフィールドワークや人権講演への参加を通して研修を行い、人権教育につなげた。 ③生徒の情報を共有し、テストへのふりがなづけや板書のチョークの色の共通理解を図った。	総合評定 (評定) A (所見) 学校生活が楽しいと回答した生徒が9割を超えていることは、授業ばかりでなく行事等に意欲的に取り組んでいる生徒が多いことが分かる。	○学校の主体的取組や子どもを中心とした教職員の取組が分かった。次年度もぜひ継続実践してほしい。 ○生徒が何事に対しても、主体的に取り組み成就感を味わえるような、「仕掛け」を教職員間で話し合い、工夫しながら取り組んでいく。 ○現在の自分に対して自信をもったり、将来への期待がもてるように自己肯定感を高める主体的な活動を増やしていく。
2 たくましく生きる力の育成	①健やかな体の育成 ②心によりそう生徒指導の徹底 ③生徒主体の活動の活性化	評価指標 保護者アンケート ①学校は生徒が快適に生活したり学習したりできるような環境づくりに取り組んでいる。 生徒アンケート ②「先生は、あなたのことをよく理解してくれる。」 ③「目標をもって学校生活を過ごしている。」 ----- 活動計画 ①奉仕作業を行い、運動場や側溝掃除を行う。校舎内外の環境づくりをする。 ②生徒指導委員会で気になる生徒等について共通理解し、全教職員で支援を行う。 ③視野を広くもてるように、計画的、継続的にキャリア教育を進める。	評価指数の達成度 ① A 88.2% ② A 90% ③ B 78.6% ----- 活動計画の実施状況 ①保護者と生徒に参加を呼びかけ、奉仕作業を行った。 ②教員が1人1人への細やかな声かけや会話を心がける。 ③職業調べや職場体験学習をするなどしてキャリア教育に努めた。	(評定) A (所見) キャリア教育等を通して目標をもつことの意義を知らせ、日々や学期の目標、1年後、3年後もゴールイメージをたせるような意識付けをした。	○職場体験学習等で実際に体験活動をする中で、将来への目標づくりにとなり、キャリア教育の推進にもなっていると思う。今後も続けていってほしい。 ○職業体験や出前授業等のキャリア教育を充実させ、目標をもち、生き生きと学校生活を送ることができるよう生徒の育成を目指す。 ○体験活動を計画的に取り入れ、課題解決が主体的に行えるような支援をしていく。
3 確かな学力の育成	①「わかる授業」の創造 ②家庭学習の支援 ③学習規律の確立	評価指標 生徒アンケート ①先生は、生徒が意欲をもって学習できるよう工夫し、わかりやすく授業を行っている。 ②夏季休業中やテスト前等に勉強会を開く。 ③-1「授業の準備物などを忘れることなく、用意ができています。」 ③-2「真剣に授業に取り組んでいる。」 ----- 活動計画 ①教員間で授業の工夫を共有し、相互授業参観等により授業研修を行う。 ②定期テスト前に勉強会を開催し、自主的な学習への意欲付けを図る。 ③職朝や生徒指導委員会で、学習の様子などについて共通理解を図る。	評価指数の達成度 ① A 94.3% ② A 夏季・冬季・テスト前に実施 ③-1 B 84.3% ③-2 A 87.1% ----- 活動計画の実施状況 ①教員間で授業の工夫を共有し、相互授業参観等により授業研修を行う。 ②夏季休業中や冬季休業中、テスト前の放課後に英語、数学等の勉強会を行った。 ③全教職員で各授業で授業態度などについて、職員会等で共通理解を図った。	(評定) B (所見) 授業に取り組む雰囲気は高まってきている。勉強会は回をおうごとに人数が増えてきており、学習への意欲も感じられるがまだ十分とはいえない。	○各学年それぞれ発達段階に応じた学習ができています。また、3年生の集中力にはすばらしいものがある。 ○どの学年も小学校時代から考えてずいぶん成長し、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○授業時数と働き方改革とのあいだについて、検討をしていってほしい。 ○教職員がタブレットを効果的に利用できるよう、さらに研修を進め、授業力を高める。
4 保護者・地域との連携	①積極的な情報発信 ②「応神学園」としての連携推進	評価指標 保護者アンケート ①-1「学校は、教育目標や教育方針を学校だより等を通じてわかりやすく伝えている。」 ①-2「学校は、家庭への連絡や保護者との意思疎通を適切に行っている。」 ②地域の幼小中等高等学校や地域の方々や適宜連絡を取り合い、学期に1回以上情報交換をする。 ----- 活動計画 ①ホームページや学校だより、マチコミなどで、教育活動の様子や学校からの連絡等を積極的に発信する。 ②教育活動や学校行事の際には地域や保護者などに呼びかけ、学校への案内をする。	評価指数の達成度 ①-1 A 94.4% ①-2 B 83.3% ② A 毎学期1回実施 ----- 活動計画の実施状況 ①毎日ホームページを更新し、修学旅行や遠足もリアルタイムで発信した。また必要ことはマチコミでも連絡をした。 ②学校運営協議会を毎学期開き地域の方々からの意見をいただき、学校の運営状況の報告も行った。	(評定) A (所見) ホームページでの広報やマチコミでの情報発信ができた。また、学校運営協議会が活発に行われ、学校の運営状況等について共有ができた。	○応神学園運営協議会というコミュニティスクールが地域とともに子どもたちの成長に貢献していると考えます。今後も保幼小中での引き続き連携した取組をしていってほしい。困ったときは相談してほしい。 ○情報の発信について、様々な方法を考えてほしい。 ○応神学園運営協議会をより活性化できるよう、意見の聴取、課題の解決等にむけて積極的に取り組む。

「評定」の基準 A：十分達成できた B：おおむね達成できた C：達成できなかった